出庭遺跡（栗東市出庭）

出庭遺跡は、古墳時代～近代の集落跡です。

平成 30 年度～令和４年度に行った発掘調査では、古墳時代前期 (約 1,700 年前) から中期（約 1,600 年前）の鍛冶工房として使われた竪穴建物跡などが見つかりました。

出庭遺跡では、200 年近く鍛冶が行われます。その間、鍛冶工房内の鍛冶炉などの内部遺構の位置が変化していきます。古墳時代中期になってからは、鍛冶炉と土坑の位置は統一されます。

以上のことから、試行錯誤と悪戦苦闘の連続の古墳時代前期の鍛冶から、古墳時代中期の安定した鍛冶になっていったことが考えられます。

古墳時代中期の鍛冶工房からは、渡来人が作ったとみられる韓式系土器が多く見つかっており、渡来人の技術力を借りて、鍛冶技術が発展していったことが想像できます。

お一人様サイズの鍛冶工房跡 (古墳時代前期)

よくあるサイズの鍛冶工房跡 (古墳時代中期)

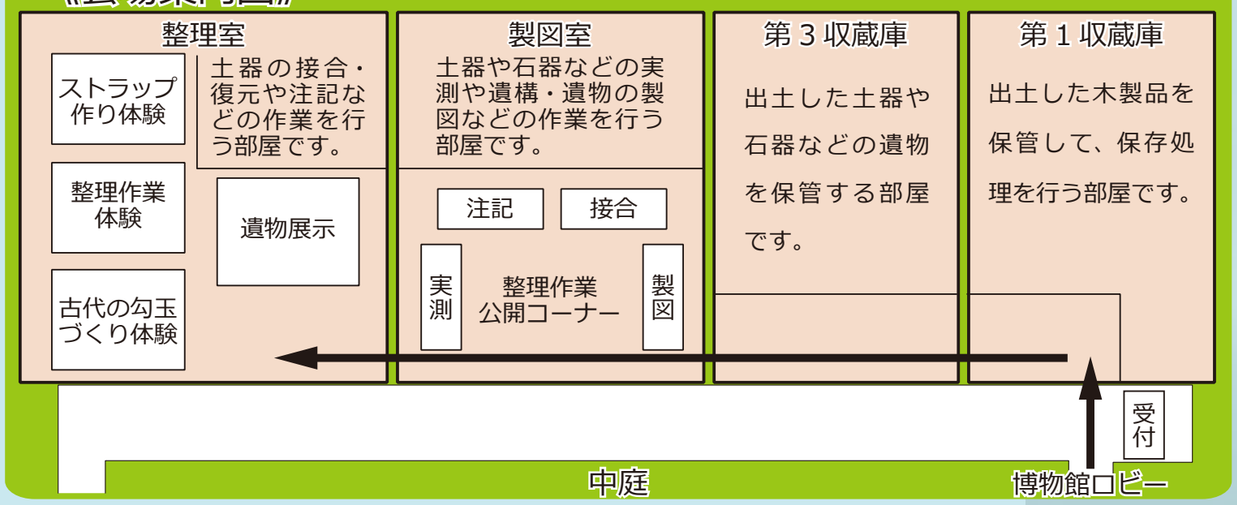
《ミニチュア円筒埴輪を思い出に》

今回の展示にある江頭南遺跡は、日野川の中でみつかった古墳です。公表時は SNS でも話題になり、クイズ番組でも出題されました。江頭南遺跡のことを忘れないでもらうため、ミニチュア円筒埴輪を作りました。皆様の自由な発想で色を塗り、前方後円墳の「エガシラミナミ」と記念撮影してってください (^▽^)/

《武将ストラップを思い出に》

今回の展示にある佐和山城跡は、近江を代表する武将の一人である、石田三成の居城です。佐和山城跡のことを忘れないでもらうため、石田家の家紋をストラップにしました。皆様の自由な発想で色を塗り、思い出の一品にしてください。

《会場案内図》

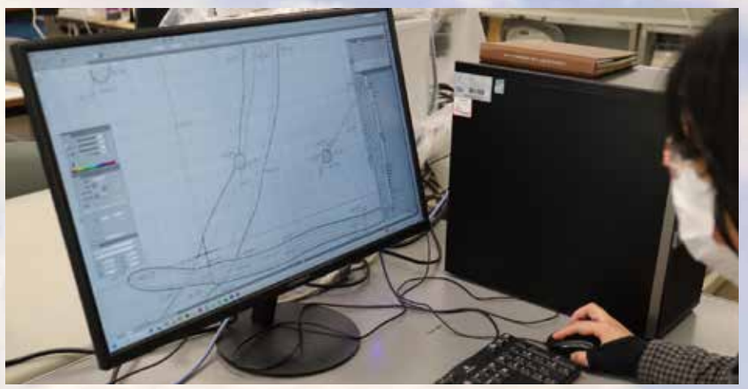


私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。
公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

整理室へようこそ！
見て・触れて・感じる考古学

整理室では…

整理室では、発掘調査で見つかったモノの“資料化”を行っています。整理作業を行うスタッフが、見つかった場所の情報をモノに書いたり（注記）、土の中でバラバラになってしまった土器をくっつけて元の形に戻したり（接合・復元）、測って図にしたり（実測）、できた図をデジタル化したりして（製図）、『発掘調査報告書』を作っています。スタッフたちの熟練のワザを、ぜひ目の前でご覧ください。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会

ホームページ 最新情報	Youtube 「しがぶんちゃんねる」	X
↓	↓	↓

◇ 整理調査中の遺跡を紹介 ◇

江頭南遺跡（近江八幡市江頭町）

江頭南遺跡は、令和元年に日野川の川道中で新たにみつかった遺跡です。当時、バードウォッチング中の人が、川の中に埴輪が並び立っているのを発見し、遺跡であることが分かりました。

令和４・５年度に発掘調査が行われましたが、川の中ということもあって発見時の状況とは違い、完全に川の中州になっていました。関係機関の協力のおかげで調査は進み、残っていた墳丘盛土の形や、新たにみつかった埴輪列の様子から、前方後円墳であることが明らかとなりました。残念ながら後円部は消失し、埋葬施設は残っていませんでした。

古墳が川に埋没していたという状況から、長きにわたる琵琶湖の水位変動や川と人との関係が、生々しく見える遺跡です。

残っていた墳丘盛土と埴輪列

墳形の想像復原

佐和山城跡（彦根市鳥居本町ほか）

佐和山城跡は、彦根市北端の佐和山丘陵の中央部に位置する、室町時代～安土桃山時代の城館跡です。はじまりは鎌倉時代前期に近江守護・佐々木定綱の六男時綱が構えた館といわれています。戦国時代（約500 年前）には湖北の京極氏・浅井氏と湖南の六角氏が戦いを繰り広げ、のちに織田信長と浅井長政の争いの舞台となりました。天正 18 年 (1590) に石田三成が入城して、大規模な拡張や城下の整備が進められました。城下町とされる佐和山城の東麓は湿地部分が多く、城下町の整備は困難だったことが調査で分かりました。一方、佐和山城の東側には東山道（中山道）通り、西側には港として利用できる松原内湖がありました。このような地の利を活かすため、果敢に開発困難地の整備を進め、城下町を築いていったのかもしれません。

しかし、関ヶ原の戦いで三成が敗れると落城し、慶長 8 年 (1603) には西側の彦根山に城が築かれ、城下町までも彦根城へ移されました。

佐和山城下の湿地を造成した痕跡 (茶色の部分は川跡)

御館前遺跡（近江八幡市千僧供町）

御館前遺跡は、日野川右岸の扇状地に立地します。近接して県史跡千僧供古墳群や古代東山道があるほか、以前に行われた発掘調査で奈良時代の木簡や墨書土器などが出土したことから、古代の役所である蒲生郡衙の推定地と考えられています。

令和 4 ～ 7 年度に行った発掘調査では、弥生時代後期 (約 1,800 年前) の竪穴建物跡や円形周溝墓、古墳時代中期～後期 (約 1,500 ～ 1,400 年前) の竪穴建物跡や方形周溝墓、鎌倉時代前期 (約 800 年前) の掘立柱建物跡や土坑墓などが見つかっています。令和 6 年度の調査では、墨書土器やコップ形の特殊な須恵器が出土したほか、人が入れるほどの大きさの柱穴から構成される奈良時代 (約 1,300 年前) の掘立柱建物跡が見つかっており、蒲生郡衙に関連する建物と考えられます。

林遺跡ほか（栗東市林ほか）

県道の整備事業に伴い、令和 5・6 年度に発掘調査を行った林遺跡・岩畑遺跡・六地蔵遺跡は、野洲川左岸の扇状地に隣り合って立地する、縄文時代～江戸時代の集落跡です。

林遺跡では、鎌倉時代前期の掘立柱建物跡や井戸跡、それらの屋敷地を区画する溝跡などが見つかりました。これらの時代に、この地域一帯に集落が広がっていた様子がわかりました。

高野遺跡・六地蔵遺跡（栗東市六地蔵）

高野遺跡・六地蔵遺跡は、野洲川左岸の扇状地に広がる、古墳時代～室町時代を中心とした集落跡です。

平成 30 年度～令和 6 年度に行った発掘調査では、古墳時代の集落跡や墳丘が消失した古墳群、奈良時代～平安時代の集落跡や道路跡（古代東海道）のほか、室町時代にいたる遺構・遺物がたくさんみつかりました。奈良時代～平安時代の遺物には、銅鉱石・鉄滓・銅滓や銅が付着した土器やフイゴの羽口が出土しており、金属器の製作を行っていたことがわかりました。

東山道（現在の国道 8 号）と奈良時代の建物群

風呂桶ほどの大きさの柱穴の掘立柱建物

鎌倉時代前期の井戸跡（林遺跡）

墳丘が消失した古墳群